

※今月のみ受注の書目です。

社会科学／政治 ご担当者さま

「総合政策学をひらく」シリーズ 刊行のご案内

慶應義塾大学 SFC（湘南藤沢キャンパス）が、日本で初めて「総合政策学部」を 1990 年に開設してから 30 年を迎えました。「総合政策学をひらく」シリーズは、「実践知」を重視しながら、ひとつの学問領域だけでは解決困難な多様な問題の解決に資する新しい「知」＝総合政策学の「今」と「この先」を示すためのブックプロジェクトです。

著者陣には、小熊英二氏（歴史社会学）、廣瀬陽子氏（旧ソ連・ロシア政治）、井庭崇氏（創造実践学）、清水唯一朗氏（日本政治外交史／オーラル・ヒストリー）、今井むつみ氏（認知科学）、土屋大洋氏（サイバー安全保障）など、各分野を代表する著名な研究者が揃っています。

本シリーズは全 5 巻構成となっております。

- ・『言語文化とコミュニケーション』（2023 年 2 月中旬刊行予定）
- ・『総合政策学の方法論的展開』（2023 年 2 月中旬刊行予定）
- ・『流動する世界秩序とグローバルガバナンス』（2023 年 3 月上旬刊行予定）
- ・『社会イノベーションの方法と実践』（2023 年 3 月上旬刊行予定）
- ・『公共政策と変わる法制度』（2023 年 3 月上旬刊行予定）

【営業部からのおすすめポイント】

日本の大学の最先端を牽引し続け、絶えず変革を志向してきた SFC の学問の現在地を示すことを目指しています。社会および政治の棚にて、シリーズ単位での展開をぜひご検討ください！

（福本）

社会科学／政治 ご担当者さま

言語文化とコミュニケーション

宮代康文（慶應義塾大学総合政策学部准教授）・

山本薫（慶應義塾大学総合政策学部専任講師）[編著]

A5 判上製／256 頁 税込予価 2,750 円 ISBN978-4-7664-2869-8 C3330

 ココに注目！

- ・創設 30 年を迎えた慶應義塾大学総合政策学部。
- ・日本の大学の先端を牽引し、政治経済状況の変動に合わせダイナミックに変化してきた同学部の学問の到達点を示す、全 5 巻！

言語そのもの、政策・教育領域の最先端研究を余すところなく紹介。言語から政策へ、政策から言語へという相互作用を生み出すために、本書では、1) 言語そのもの、2) 言語活動に関わる政策・教育、3) 政策に関わる言語活動という 3 つの領域に着目する。

対象 地域研究や外国文化、言語教育に関心のある人

【目次】

第 1 部 ことばを学び、考える

第 1 章 ことばは世界を切り分ける

第 2 章 語彙意味論の冒険——fair の文化モデルに向けて

第 3 章 ことばは現実をどのように「すくいとるか」——体験・共感・言葉の所有

第 4 章 口承の物語に現れる人間と動物の関係を読み直す——南米アンデス高地のアイマラ語と北東アジアのアイヌ語の物語テキストから

コラム 朝鮮民族と言語、そして政策

第 2 部 場を創り、ことばを教える

第 5 章 グローバル社会を生き抜くために——第二言語運用能力の習得を目指して

第 6 章 日本語コミュニティの再想像——多言語多文化共生に向けて

第 7 章 自律的な日本語学習——学習者オートノミーの育成

第 8 章 外国語学習デザインの構築と運用——SFC ドイツ語学習環境における実空間とサイバー空間の連動

コラム 「普通話」の歴史と国家建設

第 3 部 政治を動かし、社会を変える

第 9 章 政治理念の言葉——フランスの六月蜂起が問いかけるもの

第10章 イスラエルのアラブ人——二つの言語のはざままで

第11章 小説が描く現代インドネシアのムスリム社会——フェビー・インディラニ『処女でないマリア』を題材に

第12章 越境する個人——言語の間に見出すアイデンティティ

第13章 科学にたずさわるのは誰か——科学の不定性とコミュニケーション

コラム 医療専門職養成課程モデル・コア・カリキュラムに見る「コミュニケーション」の捉え方

【執筆者一覧】

今井むつみ（環境情報学部教授）／大堀壽夫（環境情報学部教授）／國枝孝弘（総合政策学部教授）／

藤田護（環境情報学部専任講師）／高木丈也（総合政策学部専任講師）／中浜優子（環境情報学部教授）／

杉原由美（総合政策学部准教授）／白頭宏美（総合政策学部専任講師）／藁谷郁美（総合政策学部教授）／

鄭浩瀾（総合政策学部准教授）／野中葉（総合政策学部准教授）／西川葉澄（総合政策学部専任講師）／

大木聖子（環境情報学部准教授）／杉本なおみ（看護医療学部教授）

社会科学／政治 ご担当者さま

総合政策学の方法論的展開

桑原武夫（慶應義塾大学総合政策学部教授）・

清水唯一朗（慶應義塾大学総合政策学部教授）[編著]

A5 判上製／ 256 頁 税込予価 2,750 円 ISBN978-4-7664-2872-8 C3330

 ココに注目！

- ・創設 30 年を迎えた慶應義塾大学総合政策学部。
- ・日本の大学の先端を牽引し、政治経済状況の変動に合わせダイナミックに変化してきた同学部の学問の到達点を示す、全 5 巻！

総合政策学の方法には様々な立場があり、社会事象の把握、政策の評価など、各分野で多様な研究手法が優劣なく併存している。こうした手法の精緻化、革新と創造は、「いかにリアリティに迫れるのか」という共通する一点に向かっていく。本書では、魅力的な執筆陣が方法論に対する先端的取り組みを紹介する。

対象 総合政策学部の学生・教職員（他大学含む）、研究方法に関心のある方

【目次】

座談会 総合政策学の方法をめぐって

第 1 章 実践知の学問の方法論

第 2 章 新しい方法、新しい学問、そして、未来をつくる——創造実践学の創造

第 3 章 数学と総合政策学

第 4 章 フィールドワークの学と術

第 5 章 中立性神話——臨床から教育現場へ

第 6 章 分野横断型研究の方法論

第 7 章 歴史社会学の方法論——社会科学に歴史は必要か

第 8 章 「開かれたオーラルヒストリー」の実践と方法

第 9 章 働くことを通じたウェルビーイングの推進——産業保健心理学にもとづく実証研究と実践活動

第10章 「よく生きる（ブエンビビール）」という理念を問い直す
——先住民の言葉と視点から何を学ぶことができるか

「総合政策学の方法論」をもっとよく知るためのブックガイド

【執筆者一覧】

國領二郎（総合政策学部教授）／井庭崇（総合政策学部教授）／金沢篤（総合政策学部准教授）／

加藤文俊（環境情報学部教授）・諏訪正樹（環境情報学部教授）・石川初（環境情報学部教授）／

森さち子（総合政策学部教授）／篠原舟吾（総合政策学部准教授）／小熊英二（総合政策学部教授）／

島津明人（総合政策学部教授）／藤田護（環境情報学部専任講師）／

